

# 写真でつなぐ“千羽鶴”。

## 東日本大震災の被災地に向けて スペイン経由、世界中から届きました。

Text 永浜敬子



瀬々さんのブログ「las 1000 grullas」では、各国から寄せられた「折鶴」の写真  
を公開。多くの人は、折り紙をするのも見るのも初めての経験で、鶴を1つ作る  
のに2時間をかけた人がいるなど、皆、一生懸命折った様子が伝わってくる。でも  
「鶴が折れた」という感動は大きいようで、話題は瞬く間に広がった。1,000羽  
はとくに超えているが、瀬々さんはまだこの活動を終わらせるつもりはないと言  
う <http://www.las1000grullas.com/>

東日本大震災からすでに半年以上が過ぎた。世界的にも広く注目を集めた今回の大震災では、世界の各地で日本に支援の手を差し伸べてくれた人々がいた。スペインもそのひとつ。現在スペインでは被災地の復興を願って千羽鶴を折ろうというプロジェクトが広がっている。



「Las 1000 grullas (1000羽の鶴プロジェクト)」を呼びかけたのは、マドリッド在住の日本人、瀬々真紀子さん。3月11日、未曾有の大震災をニュースで知った多くの日本人が考えた、「自分に何ができるのだろうか?」。速くスペインの地に

住む瀬々さんも同じ気持ちだった。「日本となかなか連絡が取れない状態で、流れてくるニュースに心が締めつけられる思いでした。そんな時、心に浮かんできたのが、願いを込めて鶴を折ることだったんです」と、瀬々さんは言う。情報が錯乱する中で、ひと折りひと折りに願いを込めて鶴を折るだけで、何だか少し落ち着いた。その思いをスペインの人々と共有したいと、震災の翌日にブログ「las 1000 grullas」を立ち上げたのだ。この「1000羽の鶴プロジェクト」の内容は、「鶴を折って、その写真をメールで送ってください」というシンプルなもの。ブログ上では鶴の折り方をわかりやすく動画で解説し、願い事を叶えるために千羽鶴を折る、日本の習わしを紹介。送られてきた

写真の多くには、鶴だけでなく、折った人の笑顔や日本を思う世界中の人々からのメッセージも添えられていた。「鶴を折るのは、ほとんどの人が生まれて初めての経験だったようです。参加者は日本人のように手先が器用ではない人が多いのですが、皆さん時間をかけて一生懸命に折ってくれました。でもこのプロジェクトは、被災地に千羽鶴そのものを送ることが目的ではありません。折り鶴をきっかけに海外の人たちが日本のことを知り、その思いが大きなエネルギーになって、被災された方をサポートする何らかの動きになればいいな、と思っています」。そんな瀬々さんの思いは着実に浸透し、今やスペインのみならず、今や世界中に広がっている。「チリの大地震で被災された人からも、僕が一步進むために1羽送ります」というメッセージを添えて、写真が届きました(瀬々さん)

さらに、今秋、このプロジェクトを瀬々さんと二人三脚で進めてきたスペイン人の友人、ダニエル・ウィジャ・グーラシアさんが、2人で様々な街へ訪れて行ってきた「鶴を折る」イベントの風景など、これまでの活動を記録したショートムービー「1000羽の鶴 Las 1000 grullas」を「UNICEF 国際平和映像祭2011」(横浜で開催)に出展した。これが見事「ピースポート賞」を受賞。これにより、瀬々さんの活動は日本でも初めて紹介されることになったのだ。日本にもようやく届けられた「千羽鶴」、これからさらに飛躍しそうだ。